

十六銀行の主な環境活動

➤ 環境方針の制定

当行は、平成 25 年 4 月に十六銀行グループ全体の「環境方針」を新しく制定しました。この「環境方針」に掲げた「基本理念」や「行動指針」に基づき、本部・営業店の全役職員が目標を持って環境保全問題に取り組んでいます。

➤ 人にも環境にも優しい通帳の使用

当行は、人にも環境にも優しい通帳を使用しています。本通帳はCUD認定^(※)を取得しており、色づかいや文字の大きさなどに配慮し、すべてのページが“より見やすく・ご利用いただきやすい”通帳となっています。また、環境保全への取り組みとして、通帳素材に「紙クロス」を採用するとともに、ベジタブルオイルインキを使用するなど地球環境に配慮した素材やインキを採用しています。

(※)使用する文字、カラー、デザインが“色覚の個人差を問わず分かりやすいか”の観点から「NPO 法人 カラーユニバーサルデザイン機構」による審査に合格したものが受けることができる認定。

➤ 環境分野における連携事業

当行と岐阜大学は、平成 24 年 4 月に環境分野における覚書を交わし、さまざまな連携事業を行っています。例えば、夏の省エネ対策として、学生の協力により黒野支店でゴーヤを育て、「緑のカーテン」を設置したほか、岐阜大学附属小中学校の生徒を対象とした「エコ活動啓発ポスターコンクール」には、毎年、夏休み期間に描かれた多くの力作が集まります。

また、岐阜大学、岐阜市地球温暖化対策推進委員会と連携して、「エコがつながる種まきプロジェクト」も展開し、平成 26 年度は、約 4,000 名のお客さまに約 40,000 粒の朝顔の種を配布し、約 45,000 粒の種を返送していただきました。

➤ 環境に配慮した店舗作り

当行では、環境に配慮した店舗として、北方支店および羽島支店に太陽光発電装置を設置しています。また、平成 26 年 11 月に新築移転した刈谷支店は、白を基調としたエコタイルやエコガラスを使用しているほか、太陽光パネルや壁面緑化を設置しています。

➤ 栗野グラウンドに太陽光発電所設置

当行では、国のエネルギー政策（再生可能エネルギーの固定価格買取制度）に則り、栗野グラウンドに太陽光パネル容量 37.5kw の太陽光発電所を平成 26 年 8 月に設置しました。この発電所は太陽光発電により電力を生み出すだけでなく、岐阜大学の研究や大学生の教育、小中学生の見学等に利用し、災害時の非常用電源としても活用見込みです。